

川口市議会 9 月定例会がはじまります

川口市議会 9 月定例会が 9 月 4 日から開会予定です。今議会では日本共産党市議団から金子ゆきひろ議員が一般質問を行います。エネルギー価格や食料品・生活必需品の高騰が市民生活を圧迫しくらしは大変です。皆さんの声を市政に届けてまいります。引き続き、みなさんの市政に対するご意見・ご要望をお寄せ下さい。

9 月市議会の日程 (案) それぞれ午前 10 時から開会する予定となっております。 なお、正式な日程は、8 月 30 日(水)に開催が予定されております議会運営委員会で協議されます。	開会	9 月 4 日 (月)
	一般質問	9 月 13 日 (水)
		9 月 14 日 (木)
		9 月 15 日 (金)
		9 月 19 日 (火)
		9 月 20 日 (水)
	常任委員会 (環境経済文教) 常任委員会 (建設消防)	9 月 22 日 (金)
常任委員会 (総務) 常任委員会 (福祉保健)	9 月 25 日 (月)	
閉会	9 月 28 日 (木)	

本会議・委員会はいつでも傍聴できます。本会議は傍聴受付(第一本庁舎 8 階)に、委員会は議会事務局(第一本庁舎 7 階)に、当日お越しください。本会議の審議の様子は、インターネット中継でもご覧いただけます。

9 月の 無料 法律相談

◎日時 / 9 月 12 日 (火) 18 時～

◎会場 / 日本共産党埼玉南部地区委員会事務所 2 階
川口市前川 2-28-10 電話 048-267-8411

事前に電話予約の上、お越しください。なお、申し込みの際は氏名、電話番号をお伝えください。当日は筆記用具などご持参ください。

主催：日本共産党川口市議会議員団

埼玉県臨時教職員制度の 改善をすすめる会 との懇談

8 月 9 日、日本共産党埼玉県議団の呼びかけで県内の日本共産党地方議員と埼玉県臨時教職員制度の改善をすすめる会との懇談会が開かれ、日本共産党川口市議団も参加しました。

現状についての報告がされましたが、埼玉県の臨時教職員数は今年 5 月 1 日で欠員補充や特別配当・産休代替・育休代替・病休代替・加配など小学校で 1889 人、中学校で 1108 人となっています。昨年の報道では埼玉県の教員の非正規率は 17.4%とされています。

さらに、小中学校で約 3000 人の臨時教員がいることに加え、高校では 471 人、特別支援学校で 625 人も配置されています。

一方で教員の未配置・未補充は小学校 39 人、中学校 20 人になり前年よりも増えているということです。

県内の学校で臨時教員として働く方たちの訴えは、「一年契約で学校が毎年変わり、環境や子どもが変わることでの負担感」「夏の教員採用試験の準備をしながら日々の授業の準備も並行する」「次年度以降の仕事や生活の安定が保障されていない」「ある市で教員をしていたが突然講師という身分になり基本給が 10 万円減った」「20 年臨時教員として働いてきたがパワハラで健康を害してしまった」など正規の教員と同じ働きが求められているにもかかわらず、身分が不安定であることから生活や将来への不安が強くなります。

これらを改善するために、臨時教員として長年働いてきた人を本採用にすることや、同一校で継続して働けるよう徹底することなどがが必要です。

川口市でも各学校に不安定な雇用で教員として働く方たちがたくさんいます。子どもたちにとって学びと生活の場である学校が、安心して過ごせる場となるためにも教員の体制をより充実していくことが求められていますが、十分な状況にはなっていません。

今後も川口の教育の充実のために、日本共産党市議団も学校現場からの声を聞きながら改善にむけ頑張る決意です。

新川口

2023 年 8 月 27 日 No.1711

日本共産党川口市議会議員団

川口市前川 2-28-10

TEL.267-8411 FAX.261-3528

<https://www.kawaguchi-jcp.jp/>

金子ゆきひろ 松本さちえ 板橋ひろみ ふじしまとこ

原水爆禁止2023世界大会に日本共産党川口市議団も参加

8月7日から長崎市内で開催された原水爆禁止2023世界大会には金子ゆきひろ議員、ふじしまともこ議員の2名が参加しました。台風の影響で8日に閉会しましたが、参加した分科会について報告します。

被爆の実相を世界に—被爆者援護・連帯

原水爆禁止世界大会にはこれまでも参加してきました。今回はロシアがウクライナに侵攻し、日本では憲法改悪が進められようとしているなかでの世界大会です。あらためて日本政府の姿勢が問われる時です。被爆者がいない世界を迎えようとするなか、直接、被爆者の話を聞く機会の大切さ、被爆体験を語り継ぐことの大切さを実感しました。分科会で被爆者から語られた体験の一部を報告します。

日本被団協中央相談所相談員の原玲子さんの話

アメリカ政府のみならず、日本政府も被爆者に対して国家補償としての支援はせず。限られた範囲の被爆者への援護のみで、国が全面的に補償をしてこなかったこともあり、被爆者は健康上だけでなく精神的にも経済的にも苦しんできた。社会保障の範囲の援護ではなく、すべての被爆者に国家補償を求めていく。



長崎県被爆体験者 山本誠一さんの話

10歳の時に爆心地から8.5キロで被爆し、一緒にいた高野君は60日後に死亡した。しかし、被爆未指定地域だったため被爆「体験者」としかされず、被爆地域拡大も「科学的合理的根拠がある場合に限る」と歯止めがかけられた。被爆体験者精神医療受給者証には2022年度まで「あなたが原爆投下時にいた場所は原爆の放射能による直接的な身体への健康被害がない事が確認されています」と記載されていた。

広島県被団協 佐久間理事長の話

被爆者であることが嫌で東京へでた。東京でおつきあひする事になった女性とその女性の実家へ行くが、その母親が女性に「広島の人？なんで？」とこそこそ話す声が聞こえた。東京にいても同じだと思い広島に戻り、被爆者の話を聞く被団協の相談員になった。生後間もない時に被爆した被爆者もいてそのときの記憶はなく証言はできない。しかし、被爆者は生きている間に精神的、経済的苦痛があり、「人生そのものが被爆体験」である。(金子ゆきひろ)

佐世保基地見学

大会二日目は各自分科会に別れる事になっており、私は「佐世保基地調査行動」に参加しました。海と山から基地を見る予定でしたが台風接近のために海からだけの短縮版になりました。

私達参加者はバス4台で200人くらい居ましたが1隻のクルーザーに全員乗れて海に出ました。小雨が降って窓に雫が付いて、外があまりよく見えませんでした。

軍艦も台風のために多くが隠れてしまい、多用途支援艦の「あまくさAMS」とヘリを格納できるイージス艦の「はぐろ」の2艦しか見えませんでした。「あまくさAMS」は、とにかく大きかったです。

解説によると、佐世保港は長崎港や神戸港よりも大きいのに商用利用できず、賑わいがなく静かであると。軍艦はひっそり出てひっそり帰ってくるそうです。軍艦が有るといふ異様な光景に地元の人は慣れてしまっているが、たまに他所から来た人の反応を見て、異様さを再認識すると。港のあちこちが立ち居入禁止区域になっていて自由に行き来できません。民家の近くに弾薬庫が作られていたりします。この基地はなんのために有るのか？解説の中で問いかけがありました。「日本を守ってくれるため」というのは間違いですよ。と先に言って「アジア圏に攻め入る時のための月極め駐車場に使われているのです。」と解説の方が全部答えました。基地が攻撃されたときは佐世保の人は巻き込まれるのだと。



地元の方による解説は淡々としながらも哀愁と重みがあって、とても良かったです。(ふじしまともこ)

